

平成26年度 第2回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

平成26年8月28日（木）午後3時より

石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	樟山 行彦
		副会長	河村 芳行
		委 員	谷口 初江
			樋口 博
			北條 静香
			獅子原 恵
			杉本ひとみ
			奥村 佳恵

	傍聴者	0名
石狩市民図書館	館 長	百井 宏己
	副館長	丹羽 秀人
	副館長	板谷 英郁
	奉仕兼事業担当主査	岩城 千恵
	事業兼奉仕担当主査	寺尾 陽助
	奉仕兼事業担当主事	吉岡 律子

<会議次第>

1. 諮問

- (1) 「石狩市民図書館ビジョン2010」の改定について
- (2) 「第Ⅲ期石狩市子どもの読書活動推進計画」の策定について

樟山会長：本日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。今回は、来年度から実施となる石狩市民図書館ビジョン2010の改訂、子どもの読書活動推進計画策定についての議論を行います。

これから2つのグループに分かれて審議いたしますので、ぜひ忌憚のない意見をよろしく願います。

※ 丹羽副館長より諮問書の読み上げ

※ 丹羽副館長より両計画の概要説明

【石狩市民図書館ビジョン分科会】会場：視聴覚ホール

- ＜メンバー＞
- ・河村副会長
 - ・谷口委員
 - ・北條委員
 - ・杉本委員
 - ・丹羽副館長
 - ・寺尾主査

寺尾主査：この図書館ビジョン 2010 は、平成 22 年度からの 10 年間における石狩市民図書館運営の方向性を定めたものですが、具体的な行動については、教育プランと同じ内容を記載しています。

今年度は、教育プランを見直す年になりますので、それに合わせて図書館ビジョンを一部改訂し、今後 5 年間の具体的な行動を方向づけたいと考えています。平成 22 年からの 5 年の間ですでに実施し、今回の改訂案から削除した項目、また、友好図書館や雑誌スポンサー制度など、この 5 年間で新たにスタートした事業を追加していますが、基本的には現在の計画を生かしながら最低限の改訂としています。

その中で、今日の分科会では、足りない視点やサービス、または、既に記載している項目（サービス）に対するご意見を頂ければと思っていますので、よろしくお願いします。

※項目ごとに説明・議論を繰り返し。

「石狩市民図書館ビジョン」

第 4 章 石狩市民図書館が今後 5 年間に重点的に取り組む施策

2. 情報発信を通じて生涯学習を支援する

谷口委員：情報発信を通じて、ではなく資料提供を通じての方が分かりやすいので、「資料提供を通じて社会教育を支援する」というのはどうでしょうか。

丹羽副館長：検討いたします。

谷口委員：アメリカでは「死にたくなったら図書館へ」というキャッチフレーズをつけた図書館があり、注目されました。それだけ図書館が暮らしの中に大きく関わる場所だと思っています。また、レファレンスだけではなく、レフェラルサービスを視点として入れていただきたいです。専門性が試されるサービスですが、ぜひやってほしいです。

丹羽副館長：レフェラルサービスをご存じない方もいるかと思います。レフェラルサービスとは資料提供だけではなく、関係する施設や機関、場所、時には人をご案内するサービスであり、必要な視点だと思います。

河村副会長：図書館にキャッチフレーズをつけると良いのではないですか。「知りたくなったら図書館へ」など。図書館で本を提供するだけではなく、施設や場所、人材の情報を提供し、図書館に来ると何でも分かるような体制を作ってほしいです。イメージとしては、日常生活で普通に図書館があるということです。

委員一同：良いですね。

河村副会長：図書館には地域をつなぐ役割が求められているので、攻めの姿勢で色々取り組んでみるのが良いと思います。

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

3.市民の誰もが利用できるような環境を整備する

河村副会長：新しい指標として利用登録者を継続採用するようですが、目標値がかなり下方修正されています。これは「貸出・返却」のための登録であり、施設を利用するためには登録が不要であることを明記しても良いのではないのでしょうか。

また、資料利用の傾向を知るためにも、登録時に年齢や性別を確認することや、研修室や視聴覚ホールを含めた施設全体の入館者数をカウントする方法を検討すると良いと思います。

丹羽副館長：施設出入口のカウンターは、前々から設置したいと思っていましたので、検討します。また、登録時に年齢や性別を確認していない理由は、開館当初に市民側から要望されたものであり、この機会にあらためて検討しても良いかもしれません。

谷口委員：石狩市では手話条例を施行し、障がい者との協働にも力を入れています。そのため、「目の不自由な方に対して対面朗読を行なう」という削除された部分を復活させ、手話も何かしらの文言を入れた方が良いのではないのでしょうか。

寺尾主査：削除した部分を生かしながら、手話の視点も盛り込みます。

河村副会長：宅配サービスの文言をどこかに入れた方が良いですね。

河村副会長：貸し出しはともかく、返却ポイントが近くにあると大変便利です。例えば、小学校を返却ポイントに加えるなどして、小学校区単位で1か所のサービスポイントを設置してはどうですか。

丹羽副館長：検討します。

北條委員：図書館まつりや各種イベントでの本館・分館の連携のほか、本館・分館を巡る図書館ツアーのようなイベントを行っても良いと思います。

杉本委員：本館での事業の成果を分館でも、というのはどのような内容を想定しているのでしょうか。

丹羽副館長：展示や講座を考えています。平成25年度には子母澤寛の自筆原稿展を本館で行った後、花川南分館でも展示しました。

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

4. サービスを支える基盤を整備する

北條委員：ホームページを見ることができない利用者も多いため、広報いしかりを使い、継続的に図書館の記事を載せてもらうようにしてはいかがでしょうか。広報は、見ている人が多いように感じます。

丹羽副館長：広報については、アンケートを基に残す記事、残さない記事を検討しています。図書館の記事は多く読まれていないことから、数年前にページが削除されましたが、今後は、働きかけをしたいと思います。

杉本委員：情報発信や運営公表の手段として、図書館自体の広報誌が必要ではないでしょうか。図書館の良さや図書館自体のPR手段として、とても有効だと思います。以前は学校に「図書館だより」（赤いたまご）が届いていましたが、現在作っていないため、図書館に足を運んでいない方に向けての情報発信が必要ではないでしょうか。図書館に来るきっかけにもなると思います。新しいことを始めるだけでなく、あらためて図書館の良さを伝えることも必要ではないかと感じます。

丹羽副館長：図書館だよりの復活については、多方面から声がありますので、本格的に検討させていただきます。

河村副会長：石狩市民図書館に関する内容が新聞や雑誌に取り上げられた時には、それを市民に何らかの方法で紹介（PR）しても良いと思います。

谷口委員：日本図書館協会が行っている認定司書について明記すると、注目されるのではないのでしょうか。

丹羽副館長：認定司書までは記載できないかもしれませんが、近いニュアンスを検討します。

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

5. 利用者の期待にこたえる蔵書・情報源を構築する

河村副会長：削除されている成果指標の新刊図書は、全体の割合ではなく、受入点数（購入のほか、寄贈等を含む）として残した方が良いです。これが図書館の蔵書新鮮度を示す基本数値だと思いますし、できれば購入と寄贈の2本立てで数値を出すと良いのではないのでしょうか。

丹羽副館長：記載について、検討させていただきます。

杉本委員：後世に残すべき資料の収集もそうですが、今まさに読みたい本も充実してほしいと思います。札幌市では、人気本の寄贈を呼び掛けています。

河村副会長・北條委員：新刊本に限定して、試験的に貸出を1週間にしてはどうでしょうか。蔵書回転率が上がり、予約待ちの解消に役立つと思います。イメージとしては、レンタルDVD等の新作の扱いを料金ではなく、期間に置き換えたものです。

丹羽副館長：当館に合った形を検討します。

● 全体として

- ・タイトルの「2010」を削除し、奥付に平成22年3月発行、平成27年3月改訂と記載する。

【子どもの読書活動推進計画分科会】会場：研修室 1

- ＜メンバー＞
- ・樟山会長
 - ・樋口委員
 - ・獅子原委員
 - ・奥村委員
 - ・板谷副館長
 - ・岩城主査
 - ・吉岡主事

岩城主査：「子どもの読書活動推進計画」は、計画期間 5 年間になります。第Ⅰ期が平成 17 年度から 21 年度の 5 年間、第 2 期は平成 22 年度から 26 年度からの 5 年間となっており、本協議会におきまして、策定に向けて委員の皆さまに議論を深めていただいく計画は第Ⅲ期にあたります。

板谷副館長：ぜひ忌憚の無いご意見をたくさんいただけますようお願いいたします。

※項目ごとに説明・議論を繰り返す。

「子どもの読書活動推進計画」

I はじめに

2 計画策定の背景

奥村委員：文中の「まだまだ」という表現は、本がいつか人々の暮らしに不要になるのではないかと、という印象を受けるため、削除したほうが良いと思います。

樟山会長：「電子ゲームや携帯電話では創造性豊かに成長していくことはできません。」という標記について、電子ゲームなどに対する危惧はあるものの、このように言いきってしまうことには抵抗があります。現実問題として、電子機器は生活の中のツールとして、かなり入りこんできているものもあり、将来的にも無くなるものではないと思います。

委員一同：異議なし。

Ⅱ 子どもの読書活動推進のために

2 推進にあたっての視点

樋口委員：「発達段階ごとに」というと区切りが必要となるため、「発達段階に応じて」という文言にするのはどうでしょうか。

樟山会長：「機会の提供と環境の整備」の部分を「読書機会の提供と環境の整備」とした方が良いのではないのでしょうか。

奥村委員：「機会の提供と環境の整備」の中で、「前者は」の後、「一方後者は」と表記されていますが、再度「後者は」と表記されるため、何らかの接続詞をつけて省いた方が良いと思います。

樟山会長：「家庭・地域・学校」の表現で、後半は「保護者・地域・学校」と表記されているため、統一した方が良いのではないのでしょうか。また、ブックスタートについて、10か月の乳児に読み聞かせをするというのは、どのような効果が望めるのでしょうか。

奥村委員：絵本の言葉など、意味は分からないと思いますが、絵を見て指をさしたりして、赤ちゃんは楽しんでいます。絵本というよりはお母さんとの遊びの一環であり、お母さんも赤ちゃんにはどういう本が良いのでしょうかという声もあります。お母さん自体が赤ちゃんへの絵本に意欲的な様子を感じますし、ニーズは高いと思います。小さいうちから絵本を見せたいという方が多い気がします。

樟山会長：幼稚園くらいになると簡単なひらがなが読め、絵もわかってきて、生活体験も増えます。このような時期に、お母さんと一緒に本を読むことによって情緒の安定にもつながりますし、第二のブックスタートのような、幼児期の年齢に対する取組みがあると良いのではないのでしょうか。

獅子原委員：お仕事をされている方もいるので、幼稚園の時に親子で図書館に行くことは難しいと思いますが、入学前に健診機会があります。そこには必ず親子で行くため、その時に何かアプローチがあると良いのではないのでしょうか。

奥村委員：子どもが増え、上の子が自分で本を読めるようになってしまうと、親子で一緒に本を読まなくなってしまうと思います。ですが、本を自分で読めても、お母さんに読んでもらうことが嬉しいことを伝える機会があれば良いと感じます。

樟山会長：小学校は学校生活の最初であり、入学のお祝いを絵本だけではなく石狩の歴史がわかるものなどを渡すと、郷土への愛着を育む上で良いのではないのでしょうか。ぜひ検討をお願いします。

板谷副館長：方向性の中に、第二のブックスタートのような内容を入れていくというのはどうでしょうか。

委員一同：異議なし。

Ⅲ 第Ⅱ期 子どもの読書活動推進計画の成果と課題

2 学校における読書活動の充実・子どもの読書活動に関する啓発の充実

樋口委員：「読書環境を家庭でつくっていただけるような工夫」と記載されていますが、もう少し具体的に記載するか、「家庭で本に親しめるような工夫」という表現にした方が親切ではないでしょうか。

樟山会長：「学習習慣・読書習慣」となっている部分と「学習、読書習慣」となっている部分があるので、統一した方が良いですね。

奥村委員：「ヤングアダルトコーナー」は、こういう名称なのでしょう。アダルトというとあまり良いイメージで使われないような気がします。

板谷副館長：ヤングアダルトというカテゴリがあり、石狩市民図書館ではYAと表記されていますが、一般的な言葉ではないのかもしれません。

樟山会長：ミニ特集展示コーナーとはどういうものか。

板谷副館長：特集展示というまでの規模ではなく、テーマに沿った内容の本を机に並べたりするものです。言葉の定義としてわかりづらいかもしれませんので、一般的な言葉で表したいと思います。

Ⅲ 第Ⅱ期 子どもの読書活動推進計画の成果と課題

3 学校図書館の蔵書の充実

樟山会長：「読書が好き」と回答した児童の割合という表がありますが、これは何の調査なのか出典を記載した方が良いですね。また、学校図書標準は計算方法などの定義を表記した方がわかりやすいと思います。

Ⅲ 第Ⅱ期 子どもの読書活動推進計画の成果と課題

4 学校図書館の体制整備・市民図書館による支援

樟山会長：学校と市民図書館をオンラインで結ぶのはとても良いことだと思いますが、市民図書館の本を、学校から児童が借りることはできません。そこを改善すると、市民図書館の貸出冊数も増えるでしょうし、子どもたちも市民図書館まで行かなくても、学校から本が借りられ、本に親しむ機会が増えると思います。この点を、ぜひご検討いただきたいと思います。

板谷副館長：子どもは学区から1人で出られないという決まりがあるので、図書館まで来て本を借りてくださいというのは難しいことです。そのため、方向性の中でネットワークを活用した貸出というような内容を検討したいと思います。

樟山会長：分析評価・方向性で、「功を奏している」という表現ではなく成果をあげている、という文言にするのはどうでしょうか。また、学校図書館整備等の状況は、平成26年度で全てなのですか。

板谷副館長：学校司書配置で、残っている大規模小学校は紅南小学校のみです。中規模校ですと、石狩小学校など数校残っています。

樟山会長：今後の予定が分かっているのであれば、それも記載してはいかがでしょうか。分析評価・方向性の中で、「児童生徒が大いに学校図書館を活用出来る読書環境を整備します。」と明記しているので、見通しがないと計画にならないのではないのでしょうか。

板谷副館長：検討します。

Ⅳ 子どもの読書活動推進のための取組

1 乳幼児期における読書活動の推進

板谷副館長：先ほど話題になった第二のブックスタートのような事業について、この項目

で触れるのはどうでしょうか。

委員一同：異議なし。

樟山会長：教師については、全て教諭に統一した方が良いですね。また、おはなし会は読み聞かせのことだと思いますが、事業の概要について「おはなしを楽しむ機会」ではなく、「読み聞かせを楽しむ機会」が良いのではないのでしょうか。「本に触れる機会」も「本に親しむ機会」にしてはいかがでしょうか。

吉岡主事：「子どもにとって生まれて初めての読書体験は家族から提供され」とありますが、ブックスタートの時、初めて本に触れるという赤ちゃんを見かけることもありますので、言いきってしまうのはどうでしょうか。

奥村委員：家族と限定しないで、大人という単語にしてはいかがでしょうか。また、読書体験というのが固く感じます。

樟山会長：願いも込めている部分があるのではないのでしょうか。家庭教育が大事であると思っただけのよう、本との出会いは家族から始まり、など文言を変えてはいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

IV 子どもの読書活動推進のための取組

2 小学生期における読書活動の推進

樟山会長：「小学校は、子どもが家庭以外で最も長い時間を過ごす場所」と記載されていますが、「最も」という言葉ははずし、また、図の中心にある「ボランティアによる支援」の「読みきかせなど」は省略しても良いと思います。

委員一同：異議なし。

IV 子どもの読書活動推進のための取組

3 中学生・高校生期における読書活動の推進

樟山会長：「自力で図書館を活用する能力」というのは「主体的に」など表現を変えた方が良いですね。

樋口委員：調べる学習コンクールは中学生までだと思います、先日、高校生のビブリオバトルというのを拝見しました。とても良い内容だったので、このようなものを盛り込むのはいかがでしょうか。

樟山会長：図中のイラストは、もう少し印象の良いものにしてください。

岩城主査：検討いたします。

V 子どもの読書活動の基盤整備

樟山会長：「本に触れる」という表現を「本に親しむ」としてはいかがでしょうか。また、「保育所」を全て「保育園」に統一し、「ボランティア」も「ボランティア団体」に統一した方が良いですね。

板谷副館長：先ほど話題に出ていました市民図書館の資料を学校から児童へ貸し出すオンライン化活用の件についてですが、何らかの記載を検討します。また、学校司書についての項目に関しても検討します。

樟山会長：保育園・幼稚園・児童館のところに蔵書の充実とありますが、何か施策があるのですか。また、家庭の役割について記載が無いので、家読（うちどく）の推進などを入れてはいかがでしょうか。

奥村委員：イラストに、「病院など民間の施設」とありますが、何か施策があるのでしょうか。

岩城主査：現在病院に対しての貸出は無いのですが、民間の施設には団体貸出などを行っています。

樟山会長：イラスト内の「家庭」と「保育園・幼稚園・児童館」を入れ替え、学校と家庭と図書館の流れを整理してはいかがでしょうか。

委員一同：異議なし

～両分科会終了～

※ 丹羽副館長と板谷副館長より各分科会の議論内容について概要を説明

百井館長：本来、私が諮問を申し上げなくてはいけないところですが、不在にしており大変申し訳ありませんでした。

両分科会では熱心にご議論していただき、本当にありがとうございます。計画作りはとても大切なことです。みなさんにご議論いただいたことに対し、実行性を伴う計画にすることを私たちの責任として、強く意識していきたいと思います。

樟山会長：長時間精力的にご議論をいただき、誠にありがとうございます。答申につきましては、各分科会で出されました皆様からのご意見を参考にし、私と副会長が責任をもって作成しますので、一任いただいてもよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

樟山会長：本日の皆さまからのご意見は新しいプランに反映され、より良いプランになることを確信しております。大変お疲れ様でした。

平成 26 年 9 月 19 日

会議録書名委員

会長 樟山 行彦